



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより



ためし

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



令和7年9月24日号 文責 上久木田 雄二



少子化は何を招いたか

少子化・高齢化と言われ続けてきましたが、もはや「少子社会」であり「高齢社会」であると私は思っています。子ども世代の人口は確実に少なく、高齢者の人数は依然として多いです。いびつな社会構造になっていることは、あちこちの人手不足が物語っています。出生数が年間100万人を切ったのは、平成28年で今から9年前です。

令和元年	約86万人
令和2年	約84万人
令和3年	約81万人
令和4年	約77万人
令和5年	約72万人
令和6年	約68万人

私が生まれた昭和40年の出生数は、182万人、私が教員になったころは124万人だったことを考えると半分くらいと考えていいでしょう。

子どもの数が減ったにもかかわらず、子どもを取り巻く環境が好転した話はあまり聞きません。いじめや不登校、虐待や貧困は子どもの数が減ると、数は減るはずなのに、そんな変化は聞きません。

令和で誕生した子が、そろそろ小学校に入学してきます。少子社会は一体何をもたらしたのでしょうか。

このことについては、様々な社会学者がいろいろな見解を述べています。私が言える事実は、

一人の子どもに向けられる大人の目がかなり増えた

ということです。家庭だけでなく地域社会でも学校生活でも同様です。子どもの世界に大人がかかわる機会も、頻度も、回数も、割合的には爆発的に伸びたと言わざるを得ません。

私が生まれたころに比べると、単純計算で、

2倍から3倍のかかわりが増えた

ことになります。

普通に考えると、大人が子どもに関われば、子どもは幸せになるような気がします。子どもは守られ、大切に扱われ、温室の中で育て、安全であったはずで

す。しかし現実には真逆でした。少子社会は、子どもから「健全」を奪いました。

次の号では、子どもにとって「健全」とはどんなことなのかを考えてみたいと思っています。お楽しみに。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

